

# 生徒を引率中(指導中)に経験したヒヤリ・ハット事例集 (道迷い)

独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所

※ この事例集は、平成29年度に開催した高等学校等安全登山指導者研修会の事前課題で研修生の皆さんから収集したヒヤリ・ハットの主な事例と対応についてまとめたものです。場所や人が特定されないように、修正を加えたものです。

キーワード	事例	対応、その他
道迷い	山行中、想定以上に長い時間がかかり、途中生徒が沢に足を踏み入れて濡れてしまった。ルートが正しいか不安になったが、薄暗くなる前になんとか麓にたどり着けた。	地図を頼りにひたすら下山した。
道迷い	登山道が尾根から離れてゆくルートをとっていた際にガスが濃くなり、先頭がルートを外れて尾根沿いに進んでしまった。	一度隊を止めて現在地の確認を行った。事前に地図を把握していた者が間違いに気づき地図確認を要求した。
道迷い	近隣の山(標高約580mコースタイム3時間)へトレーニング山行に行ったとき生徒が道迷いをした。その後降雪もあり危険であったが別ルートを下山する生徒を発見し事なきを得た。	生徒と顧問は別ルートで頂上へ向かっており、予定時刻よりしばらくたつたところで生徒の迷いそうなところを探したところ発見できたので良かった。降雪前に下山予定であったが不測の事態への読みが甘かったといえる。
道迷い	高校総体登山競技に向けての現地下見(5月上旬の残雪期)での下山時、登山口近くのやや平坦な残雪上を全員揃っての歩行中、ルートを間違えて谷筋を少し(20~30mくらい)降りてしまった。	降りてしまった分の谷筋を登り返し、樹木に取り付けられてあるマーカースとトレース痕を再チェックし(約15分間)、現在地点を確認、生徒たちをフォローしつつ、入山時と同じルートを無事にトレースして下山することができた。
道迷い	登山ルートを見失い、道迷いになってしまう。(国土地理院の地図には明記されていたにもかかわらず、途中でなくなっていた。現状と異なっていた)	GPSで現在地点を確認し、別ルートを確認しながら進み、登山道に出ることができた。これ以降は、生徒を引率する前に、事前に現地調査をするようにしている。登山ルート上の情報を、インターネットなどを利用して多く収集するようにした。
道迷い	本隊が先行し、後から合流した生徒一人を連れて地図等を確認せずに本隊を追いかけた。登山ルートを見失い、ヤブこぎをして、稜線に出、登山道にやっとたどり着くことができた。	引率、登山の初心者で、何も分からずに行動してしまった。単独行動を絶対しないように心がけている。
道迷い	下山を急いだ先頭集団約20名が道を間違え、別の地点に下りてしまった。	携帯に生徒から連絡が入り、現在地が把握できたため、借り上げバスを回して乗せて戻った。
道迷い	濃霧の中歩行中にリングワンデリングに陥った。	ガスが晴れるまでしばらくとどまらせて、地図上の現在地を予想させ、視界が開けてから答え合わせをして、前進した。
道迷い	3月下旬の2000m以上の山において、登る時は天候も安定していたが、上の方まで行ったときかなりガスが濃くなり視界がほとんどない状態となった。一面雪原の中であった。	地形やGPSの軌跡を見ながら安全に下りることができた。
道迷い	県内の登山大会で、隊の最後尾を5名で登山中、話に夢中になり、分岐で右折する所を直進してしまった。	5分程度進んだ所で、間違いに気づき引き返して正しいルートに戻った。
道迷い	登山マップに載っている登山道ではない山に登ったときのこと。踏み跡と赤布を頼りにしていけば登れるコースだったが、登頂した後の下山途中でルートからはずれてしまった。	ルートから少しはずれただけだったので、来た道を引き返してルートに復帰することができた。
道迷い	8月中旬、沢登りに連れて行ったとき、ペースの上がらない生徒がいたために、速い生徒2名を先に行かせた。沢の分岐点で待機しているよう命じたが、その場に着いたときにその2人がいなかった。	2本それぞれの沢の上部まで探しに行き、大きな岩の陰に座って行動食を食べている2人を発見。分岐点に気づかずに登っていき、なかなか分岐点が出てこないの、とりあえず先生を待とうということで休んでいたらしい。パーティーを二分すること、生徒だけで行動させることの危険性を痛感した。
道迷い	6月。濃霧の日、小屋から30mほど離れたトイレに2人で行こうとし、用をたしたが、その後、戻る方向がわからず、夜中彷徨っていた。次の日の朝、同じチームの1人が返っていないことの報告を受けた。小屋から離れたハイマツの根の下に潜っているのを発見・救助した。	朝に、二人がいないことの報告を受け、顧問全員で周辺を捜索した。遭難した二人は、あちこち歩き回らずに、ハイマツの下にじっとしていたことが大事に至らなかった。低体温症になっていたため、暖かい所に入れ、暖をとらせ、暖かい飲み物や食べ物をあげて、元気を取り戻した。
道迷い	登り慣れた低山であったが、山頂付近で降雪にみまわれ迷いそうになった。	地図と赤いテープを頼りに、歩行。
道迷い	2人1組で行動した際に、沢を間違えて道に迷った。	所持させていた無線から先に進まないよう指示。所持しているGPSを取り出させログを頼りに迷ったコースまでもどらせ合流した。
道迷い	トレイルランニングのコースを外れ道に迷った。	携帯電話を所持していたので、携帯電話の通話で位置を特定し動かないよう指示。顧問が迎えに行った。
道迷い	スキー登山の下山中にホワイトアウト。下山ルートを見失う。	パーティーがバラバラにならないように固まる。視界がよくなるまでツェルトを使って待機。
道迷い	時間的に遅れ気味で焦っていたこともあり、下山中に登山道が正しくは尾根上から右に折れる箇所まで直進してしまい、道を見失った。直ちに地図とGPSで現在地確認を行ったが、厄介なことに地図(国土地理院)の登山道の位置が間違っており(下山後に判明)、地図上では登山道を正しく歩いていることになっていた。	地形図通りにこのまま行くと、藪漕ぎをした上急傾斜を伝って谷底へ落ちる形になるので、地図が誤りと判断して、尾根上を登り返した。10分ほどで正しい登山道を発見して事なきを得たが、計画から1時間程度遅れることになった。以後、情報の鮮度に注意を払うとともに、必ず2種類以上の地図を計画時に確認している。
ルート間違い	ピークまでのルートが2つ(直登とまき道)があり、直登を進行したが、危険箇所がありヒヤリとした。	時間をかけて、ゆっくりと登り、安全な場所で生徒全員が来ていることを、その都度確認した。